

2025. 1. 25

No.243



編集・発行人 樋口みな子
E-mail
minginga@agate.plala.or.jp
URL <http://www13.plala.or.jp/minginga/>
ゆうちょ銀行から(記号)19710
(番号)02218911 多銀行からは
(店番)978(口座番号)0221891
ヒグチミナコ(郵送料年間2,000円)

2025年の新春を迎えて すべての人に居場所がある社会に

2025年の江別の新年は例年になく雪が少なく穏やかに迎えました。

でも世界に目を向ければ、ロシアがウクライナに侵攻して3年が経ちました。1月19日にパレスティナ自治区ガザでの停戦が発効。合意後も続いていたイスラエルの空爆は現在伝えられていない。その代わりに、21日にはヨルダン川西岸のジェニンでイスラエル軍の

やりです。災害に見舞われたら誰に相談したらいいのでしょうか。一人暮らしをしている方も多いようですが何かあった時の連絡先も知らされていません。私の居場所は、少し遠いですが教会のミサに与ることです。教会が地域の人たちの自由に集える場であってほしいと願っています。

銀河通信の発行をいつまで続けられるだろうか？と悩む日々でした。読者からの振り込みがおろせずにあります。30年近く使った印鑑が見当たらず、印鑑の変更届けを出そうとしたら「出来ない。今後は個人事業主として税務署に届けなければならぬ」と小樽貯金事務センターの担当者から言われました。通信発行で収益を受けているわけではないのでびっくりしました。振込先はゆうちょ銀行19710-02218911に、他銀行からは店番(978)口座番号0221891にお願いします。どうぞ読者として支えていただけたらと思います。

読者である東京にお住いの甲野恵美さんが「甲野恵美詩文集 瞬〜とき〜」を昨年12月に自費出版されました。恵美さんが生きた82年間の歩みです。子どもの頃から現代までを、父が戦争に行き生きて帰ってきたこと、小学校教師時代のエピソード、人権関係の機関紙「人権のひろば」でたくさんの方にインタビューして、印象に残った人たちのことなどが縦横に語られます。それを長い文章ではなく、まるでその光景が見えるような詩文にしている、心に響きました。当時を思い出して書いたものです。「大人になってみたい 大人になれるだろうか 大人になるまで生きられるだろうか 中高校生の私はいつもこんなことを考えていた 死という文字もちらついて 家族が寝静まったところ起きだして読んだり書いたり 悶々と 子供部屋は二段ベッドで姉と一緒に 隣の部屋には弟が 一人になるには姉弟が寝静まるのを待つしかない 私は大人になり それからずっと大人をしている」。



旭川市内から見た夕暮れの大雪山

1月12日夕方、夕方久しぶりに夕映えの大雪山が見えました。(右の大きな山が旭岳)16時前でしたがやはり冬の陽が傾くのは早いですね。短い時間にダイナミックに景色が変わりました。(文と写真・旭川市黒田忠さん)

大規模な「対テロ掃討作戦」を展開しています。

被爆者の立場で核兵器廃絶を訴えてきた、日本原水爆被害者団体協議会のノーベル平和賞受賞は、嬉しいニュースでした。被団協を代表して受賞の言葉を述べた田中熙巳(てるみ)さん(92歳)は自身の被爆体験を「目にした人々の死にざまは、人間の死とはとても言えないありさまでした。誰からの手当でも受けることなく苦しんでいる人々が何十人何百人といた。たとえ戦争といえども、こんな殺し方、こんな傷つけ方はいけない」と訴えました。長い演説の一部ですが田中さんが被爆者の思いを代弁された姿を忘れません。

「全世界のすべての人に居場所がある教会に」。この言葉はカトリック札幌司教区の勝谷太治司教が年頭に述べたメッセージの一部です。

日本も闇バイトや、凶悪な犯罪が後を絶ちません。私の住む町内は、ほとんど付き合いのない方たちば

私は子どもの頃、体が弱く、20歳まで生きられるだろうかと思っていました。それなのに好奇心旺盛で、日高の山奥で「北の国から」のような暮ら

しをしていた開拓農民の祖父母や年の近い叔母たちが大好きで、何度も汽車に乗せてもらって出かけました。小学校1～2年生の頃、一人で野山で遊んでいて熱中症になり、意識が無くなり、祖父は馬で街にでて医師の往診を頼み、祖母は私の両親に「ミナコキトク、シキユキタレ」と電報を打ちました。小学4年生の時、高熱で肺炎にもなりました。何度も生きのびて今があります。生かされた命だったんだと素直に思えます。父の転勤で転校を小中で7回もして、友人がいないので本を読むこと、書くことが好きな少女でした。

東京での学生時代に水俣病に出会い、公害を無くしたいと行動を起こしたのは、懸命に生きる患者さんたちの尊さに力をもらったからでした。今もささやかな支援を続けています。

恵美さんの本の文中に斎藤喜博先生との出会いのことが書いてあり、びっくりしました。夫は斎藤先生の授業実践を学んだ方を通して「札幌教授学研究会」で学んだ一人です。斎藤喜博全集が今も本棚に並んでいます。恵美さんとの不思議なご縁に心が震えました。夫の遺影にも報告しました。恵美さんのような文才はありませんが、「銀河通信」を出すにいたった人生を書いてみたいと思いました。(樋口みな子)

核のごみ、最終処分場問題 アップデート 塩川哲男



原発廃棄物を再処理して残る核のごみ(高レベル放射性廃棄物)の最終処分地を選定するための第1段階である文献調査を、2020年秋に北海道の寿都町と神恵内村が受入れ、4年が経過しました。当初、文献調査は約2年といわれていましたが、大幅に遅れ、20

24年2月13日、この報告書案を原子力発電環境整備機構(NUMO)が公表しました。

その報告書案が8月1日、経済産業省の特定放射性廃棄物小委員会です承されましたが、2月公表の当初案同様、寿都町全域と神恵内村の南側の一部を次の段階である概要調査候補地としています。

NUMOはこの秋にも報告書を完成させ、両町村長と鈴木道知事に提出します。また、両自治体をはじめ全道各地で報告書の説明会が予定されています。その結果を受けて、NUMOが次の概要調査の申請を経産省に行い、認められれば概要調査に進むことになります。この条件として首長と知事の同意が必要となっていて、鈴木知事はこれまで何度か「現時点では反対」と表明しています。また北海道には高レベル放射性廃棄物の持ち込みを「受け入れがたい」とする条例(2000年)もあります。寿都町では住民投票を行ってその結果をもとに片岡町長が判断する、もし住民投票自体が有権者の過半数にならず、成立しなければ概要調査には進まないように国に求めるとしています。

処分場の選定は、文献調査、概要調査、精密調査の3段階をへて20年程度かけて行われることになっています。これまで文献調査に応じたのは上記2町村

のみでしたが、2024年6月、佐賀県玄海町で文献調査が始まりました。国の科学的特性マップ(右図・2017年公表)では町内のほぼ全域が不適地であるにもかかわらず、国側は調査可能と判断し、脇山町長も本心は受け入れ反対としながら「原発立地自治体の責務」だとして受け入れたのです。

北海道反核医師・歯科医師の会は「泊原発を再稼働させない・核ゴミを持ち込ませない北海道連絡会」(略称:泊・核ゴミNO!道連、約70団体で構成)に加盟しており、北海道には原発(核発電所)も核のごみもいらぬという立場で運動に協力しています。

この秋から全道各地で開催されるであろうNUMOの説明会にぜひ多くの会員のみなさんが参加されて、率直な疑問や批判をぶつけ概要調査へ進ませない運動を盛り上げましょう。(北海道反核医師・歯科医師の会事務局長)同会会報第71号=2024年10月22日発行から転載

パレスチナに学ぶ"巨きな意思" 文・写真 松元保昭

2002年の3～4月、イスラエルは西岸北部のジェニン難民キャンプを急襲し数百人の犠牲者を出した。その惨状を聴いたわが高3クラスの子もたちは、札幌ファクトリーの一室を借りて夏休みに「パレスチナ写真展」を開催した。その子たちに背



を押されて私は初めてパレスチナの地に赴いた。私のパレスチナ問題の始まりだった。瓦礫のジェニンに滞在していた夏の朝、「ヤムーンがやられた!」とたたき起こされて隣町ともいえるジェニン北西15キロほどのヤムーン村にはせ参じた。倒壊した家屋に潜り込んでみると、子どもたちがずらっと覗いている。写真(上)はそのとき撮ったものだ。

2023年10月7日に始まったガザ大虐殺は、すでに1年3ヵ月経ても終わらず死者は数万人を超えている。同年9月にはその前哨ともいえるジェニン難民キャンプへの急襲があった。あの写真の子もたちはみな20代の青年となつて、闘っていたにちがいない。イスラエルがどんなに分断支配しようとも、ガザと西岸は地続きなのだから。100年前からシオニストに奪われ襲われ続けてきたパレスチナ人は、その抵抗の意志を閉ざしたことはない。テロリストと言われようと人間のけだもの(human animals)と言われようと。

思い出すと20年前、3度目のパレスチナ訪問のとき、たしかヘブロンで中年のおばさんが、「私たち

佐賀県玄海町の科学的特性マップ



「環境生活」2024年9・10月号より転載

はアメリカを解放するために闘っているの…」と私に
言っただけで笑ったことがあった。それで帰国してから
拙い詩を書いてみた。

土地と水と仕事を奪われ オリーブの木を焼かれ
家と農地をブルドーザーに破壊され
いまも古郷を追われる人々
理由もなく牛も羊も子どもも殺され
三米の壁を迂回し乗り越え八米の壁に遮断され
生きることの尊厳を 軍事支配という超絶の力で
挫かれ振じ伏せられる屈辱の日々

世界が顧みぬ この怪奇な白昼の強奪を
凝視しつづけるしかない市井の人々
千々に轢き千切られたこの軀から
なを ほとばしるアラブの氣勢と誇り高い笑い

数十年もの間 欧米とイスラエルの奸計に翻弄され
もはやゲッターと化しているこのパレスチナにあって
彼らは「アメリカを解放するために戦っている」という
この驚くべき生活力と生命力 そして大きな意思…
(パレスチナ再訪にて、松元保昭 2004)

パレスチナ問題を「大きな意思」で眺めてみると、「
反ユダヤ主義」という一千年にも及ぶキリスト教ヨー
ロッパの罪責が浮き彫りになる。また各地にゲッターが
つくられたヨーロッパにおいて、近代国民国家の時代
に合わせて、ユダヤ人差別に抗するシオニズムがナ
チズムと米英の共謀でユダヤ人をパレスチナに棄民
した。だが、「反ユダヤ主義」の長い罪責をキリスト教
ヨーロッパが自ら償うことも贖うこともせずに、非ヨー
ロッパの地のパレスチナ人へののみその責めを負わせて
きた100年であり現在でもある。

また、裏庭中南米をはじめ、アフリカ・中東・東南ア
ジアと、アメリカ帝国主義の世界支配操作の常套手
段となっている「代理戦争」にいまだに気付かない人
々が大半を占める日本人と日本の洗脳メディア。201
4年からの米面策のドンバス攻撃を、「ロシアのウクラ
イナ侵攻」の枕詞ひとつで、ただちにプーチン悪魔化
が独り歩きする。米ジャパン・ハンドラーが第一列島
線のラップを吹けば、自ら「台湾有事」「対中脅威」を
叫び「南西諸島ミサイル基地化」がただちに現実のも
のになる対米従属病はもはや深刻な精神の病に陥っ
ている。そもそも IS が米 CIA が創作・操縦したも
のであったこと、その IS を補強するアルカイダの分派
ヌストラ戦線の後継「シャーム解放機構」(HTS)が昨年
までトルコの基地で軍事訓練をしていたことなど知る
由もない。

ナクバ以来のパレスチナ人の抵抗をテロとみなすイ
スラエルと米代理戦争戦術が合体したものが「対テロ
戦争」の欺瞞的なからくりだ。大局をアメリカさんに預
けてはそれさえも見抜けず、自立した知性や「巨
きな意思」など生まれようがない。損得勘定ばかりが
知性の大半を占め、人類の普遍的正義、人間の尊厳
(カラーマ)、人権の基底にある抵抗権などおよそ学
ぶ場のない日本人は、一面の瓦礫を前にしたガザの
男の「犬だって足を踏まれたら吠えるだろう！」という
叫び声に耳を傾けることはないだろう。万世一系とい

う空虚で夜郎自大な天皇制が残存するこの列島社
会において、アイヌ・琉球・在日の人々とともに、パ
レスチナの「不正に抗う大きな意思」に学ぶことが
できるだろうか？ (パレスチナ連帯・札幌代表)



2025年元旦の朝に見た大山
(鳥取県・米子市内で。撮影 澤耕司さん)

第7次「エネルギー基本計画」案に反対 する 脱原発・自然エネルギーをすすめる 苫小牧の会 津田孝

2024年12月17日にエネルギー基本計画案(エ
ネ基原案)に紙のメディアでもネット上でも多くの
個人・団体・マスコミ等々がこれをそのまま疑問も
なしに発表したり、或いは既に成案の如く第7次エ
ネ基として行われるかのような様相を呈している。
勿論、多くの新聞等の社説はもとより、各種NPO
やNGOなどから沢山の声明や批判等が公表され
ている。そこで、本会としては原案の個々の項目を
取り上げ、批判することではなく、以下に二つのこ
とを述べて、声明とするものである。

一つは、このエネ基原案は撤回されるべきとい
うことである。個々の項目というよりは、その全体が
原発回帰であり、再生可能エネルギー比率を極力
低く抑え込み、世界の気候温暖化対策に貢献せ
ずむしろ逆行しているからである。2011年3月の教
訓は、これからの日本は「可能な限り原発依存度
を低減していく」ことであった。その原点を忘れ、
既に14基稼働させている老朽原発をさらに倍増さ
せ、或いは次世代革新炉なるものの開発を盛り込
んでいるが、原発への依存度を高めていく政策・
計画は到底受け入れられない。

そもそも、原発を脱炭素化の一環とすること自体
間違いである。原発は稼働時に地球温暖化ガス
を排出しないというのは、確かにその通りであろう
がそれ以外のあらゆる場面でCO2をはじめとする温
室効果ガスを排出するという事は、既に何十回と
なく本会も繰り返し述べてきたところである。

しかも、福島第一原発の過酷事故で受けた傷跡
は全然癒えていない。公式には2万6千人だが、
市町村の数を集計すると6万人とも言われる人々
は未だに故郷に戻れないまま避難先で暮らしてい
る。第一原発で溶融した燃料デブリはつい最近試
験的に取り出されたが僅か0.7gである。880tと言
われるデブリの総量は誰も測ってはいないから一
体いくらあるか誰も知らない。40~50年で廃炉に
するなど夢のような話である。原子力緊急事態宣

言は未解除で、事故原発を収束させる見通しもないままの原発回帰など被災者への冒とくである。

原発を稼働すれば使用済み核燃料が出る。これらを総て再処理するというが、その再処理工場は27回の竣工延期を繰り返し続け、使用済み核燃料はプールに溢れている。仮に再処理したとしても分離抽出したプルトニウムの使い道もない。苦し紛れのMOX燃料使用のプルサーマル発電も行き詰っている。再処理後の高レベル放射性廃棄物、いわゆる核のゴミの捨て場探しに右往左往している。原発を2割程度稼働するというエネ基は、原発の恩恵を一切受けぬ遠い世代にまで、長大な負荷をかける極めて乱暴無責任な計画なのである。

二つ目は、今次に限らずエネ基自体が閣議決定であるということである。エネ基の法的根拠は、「エネルギー政策基本法」であり、その第十二条の3に「経済産業大臣は、関係行政機関の長の意見を聴くとともに総合資源エネルギー調査会の意見を聴いて、エネルギー基本計画の案を作成し、閣議の決定を求めなければならない」とある。そして、同条の4に「経済産業大臣は、前項の規定による閣議の決定があったときは、エネルギー基本計画を、速やかに、国会に報告するとともに、公表しなければならない」となっている。だが決定するのは国会ではなくあくまでも閣議である。(中略)

ともかく、地球温暖化対策計画案はこの後パブリックコメントを経て閣議決定され、国連に提出されることになっているが、「パリ協定」の1.5度目標に対してこんな恥さらしの数値ではなく、CO2大量排出国に相応しい数字にする必要がある。そのためには、その大元であるエネ基自体に直截に国民の声を反映させるべきでやはり国会審議そのものが必要なのである。

紙面の都合で全文掲載できませんでしたが、新聞もテレビもいつの間にか原発回帰の論調ばかりで津田さんの意見に賛同します。(みな子)

谷川俊太郎さんー 死んだ男の残したものは 宮田律ブログ2024年11月20日

詩人の谷川俊太郎さんが亡くなった。「善と悪」のような二分法で世界を見てならないと語っていた。世界の紛争は「善悪二元論」によって多くの場合戦われているが、その背景にあるのは、自らは正義で、敵は悪とするナショナリズムの考えだ。

／谷川さんの詩に1965年に「ベトナム平和を願う市民の会」のために作られた「死んだ男の残したものは」があり、高石ともやなど多くの歌手によって歌われ、最近では元ちとせなどもカバーしている。当時の「ベトナム平和を願う市民の会」の反戦の想いは現在のガザでの停戦や平和を願う心情のように切実なものであったことは容易に想像できる。米国は現在のイスラエル国防軍のように圧倒的な破壊力をもつ兵器でベトナム市民の殺戮を行っていた。

「死んだ男の残したものは」

死んだ男の残したものは ひとりの妻とひとりの子ども 他には何も残さなかった 墓石ひとつ残さなかった

死んだ女の残したものは しおれた花とひとりの子ども 他には何も残さなかった 着もの一枚残さなかった

死んだ子どもの残したものは ねじれた脚と乾いた涙 他には何も残さなかった 思い出ひとつ残さなかった

死んだ兵士の残したものは こわれた銃とゆがんだ地球 他には何も残せなかった 平和ひとつ残せなかった

死んだかれらの残したものは 生きてるわたし 生きてるあなた 他には誰も残っていない 他には誰も残っていない

死んだ歴史の残したものは 輝く今日とまた来る明日 他には何も残っていない 他には何も残っていない

谷川さんが平易な言葉でこの詩を作った背景にはベトナム戦争の惨状に注意を向けない人々の無関心との闘いもあったに違いない。易しく語られる言葉の中に戦争への強い反対の意志と、戦争に無関心な人々に戦争の悲惨さや無意味なことを切実に訴えようとする強い心情がうかがえる。

“地獄とは、人々が苦しんでいるところのことではない。人が苦しんでいるのを誰も見ようとしないところのことだ。” —マンズール・アル＝ハッラージュ(イスラム中世の神秘主義思想家)

谷川さんの反戦詩とこのハッラージュの言葉では共通性があると思うが、現在のパレスチナのガザやレバノンは谷川さんなどが闘った無関心によって、まさに地獄の状態になっている。ガザでは昨年10月7日以降、4万4000人の人々が殺害され、イスラエル軍によって強制移住も進められている。日本でもガザに関する報道はすっかり少なくなり、レバノンではイスラエル軍の地上侵攻が本格化した10月以降、11月上旬までに3000人以上が殺害されてもほとんど報道がない。ガザでの殺戮の多さに戦争がすっかりノーマルになり、日本社会はすっかり無関心になってしまったようだ。

〈宮田律 一般社団法人現代イスラム研究センター理事長〉 M.Mさんの切り抜きからの抜粋

宮田律さんの警告と谷川俊太郎さんの詩を噛みしめたいと思います。(みな子)



1. 9 空が青いと気持ちがいいね。ふくら雀が合唱していました。(写真・みな子)

が楽になったようだった。ところがコロナ陽性になり、S病院に運ばれたが2週間後に他界した。担当医は肺専門機関で調べるように手配してくれた。後日、アスベストが検出された。

アスベストは経済成長期に多数使われただけではない。地震や津波、火災といった災害は、建設現場や解体現場の光景をむき出しにすると著者は警告を鳴らす。防火・断熱に有効で形を変えて使われている。「アスベストを吸ってしまった仲間たちに泣き寝入りはしないという勇気を」とも述べている。

(二階堂初代 クリスチャン)



命がけてたどり着いた地に希望はあるのか？

移民・難民たちの新世界地図

ウクライナ発「地殻変動」1000日の記録

村山祐介著 新潮社 2,420円

著者は元朝日新聞記者。退職後フリージャーナリストとしてオランダに拠点を移して、移民・難民が押し寄せるヨーロッパを取材。

ベラルーシとポーランドの間の森で、ベラルーシの観光ビザを持った難民が「移民兵器」としてポーランドに送られ、ポーランドによって跳ね返されるといふピンポン状態に。ドネツク州では命の危険を覚悟で人々が帰ってくる。密航拠点のチュニジアでは、母国に希望がない人々が命懸けの密航を何度失敗してもチャンスを待っている。

描写は普通の人々が穏やかな日常が戦争や政治的混乱によって破壊され、移動を余儀なくされる様子が活写されていて、私もこの場にいたら、他人ごとではないのだと考えさせられました。

難民受け入れ国で広がる不平不満や支援疲れ、徴兵逃れのために出国するロシア人の事情など、複雑に絡み合う多くの問題の存在を提示しています。出国できず兵役を強要されるウクライナの「天井のない監獄」状態も取材。どこでも、暗躍する「旅行業者」がいる。文中には移民達への反感を隠さない市民も数多いが一方で自らの良心に従って支援を続ける人たちの姿も描かれます。私もそんな現場に接したら、何とか助ける側に回りたい。新聞やテレビでは伝わらないことがリアルに描かれていて、戦争になったら、命が危険にさらされるのだと震えるような思いで読みました。

著者はエピローグで「見過ごせないという思いを抱えた一人ひとりが、それぞれのところで、できることをできる範囲で持ち寄っていく。凍てついた冬の時代を少しでもしのいだ先には、次の時代の息吹がきくと見えてくる」と書きました。私も夜明けを信じたい。

著者の父が75歳で亡くなる少し前に「それぞれのところに行きなさい」と語る場面が忘れられません。命がけの取材と知りながら送り出してくれたエピソードが心に沁みました。(樋口みな子)



1月19日氷点下
14度の朝、真っ
青な空に霧氷が美
しかったです。
(写真・みな子)



マルは言葉、クルは文章、ソリは声

隣の国の人々と出会う

韓国語と日本語のあいだ

斎藤真理子著 創元社 1,540円

著者の斎藤真理子さんはたくさんの韓国の本を翻訳されています。その1冊がノーベル文学賞を受賞したハン・ガン「別れを告げない」です。

著者は1980年に韓国語に出会います。民主化を求める学生、市民らが決起した光州事件でした。私がこの事件を知ったのは韓国映画「タクシー運転手 約束は海を越えて」でした。事件の実情を伝えようとするドイツ人記者をタクシーに乗せた運転手の物語でした。韓国は長い間、独裁政治に苦しみました。それらの事実を目を背けず、果敢に映画にして伝えていることに共感と敬意を覚えます。

本書はこの言語の魅力、痛みの連続である現代史と文学の役割、在日コリアンと言語のかかわりなどを、文学翻訳の豊かな経験から親しみやすく語ります。文字、音、声、翻訳、沈黙など、多様な観点から言葉の表れを捉え、朝鮮半島と日本の人々のあいだを考える1冊です。

短い言葉に秘められた深さに感動しました。「たまに、2つの言語がほんとに重なったと感ずることもある。韓国語でもなければ日本語でもない、いや何語でもあるし何語でもない、もしかしたら言葉でさえない、言葉になる前の何かを重層的に体験しているような」とも書いています。

この本を読んで韓国映画に惹かれる理由が少しわかったような気がしました。詩の文化も素晴らしい。(樋口みな子)



184首の名歌を読みとく

西行 歌と旅と人生

寺澤行忠著 新潮選書 1,760円

数多くの西行の歌を書き込み、わかりやすい言葉で訳文を添えて、著

者は歌の背景や状況などをていねいに解説しています。あまり型にはまらず、まるで現代の言葉かのような親しみを感じました。金も名誉も家族も持たず自分の足で歩き続けて歌った数々に、心が洗われました。清廉潔白に生きるのは難しい。

私は特に、「自然へのまなざし」の項で紹介されていた歌が好きです。自然の中で暮らした西行は小さな動物や植物に心通わせ、親和した歌を多く詠んでいます。「真菅生(ますげおふ)る山田に水をまかすれば うれし顔にも泣く蛙(かはづ)かな」(真菅の生えている山の中の田に水を引き入れてくると、いかにもうれしそうに鳴く蛙であるなあ)や「雲を出(いで)て我に伴う冬の月 風や身にしむ雪やつめたき」(雲を出て私についてくる冬の月よ風が身にしむのか、雪が冷たいのか)と月をいたわっています。私も冬の夜道を歩いているときに月の灯りが寄り添っているように感じるがあります。

(樋口みな子)

居場所があるって大切だね

クッキングハウスの新年会 井出歩



1月7日、東京の調布市にあるクッキングハウスで、メンバー、スタッフ35名で、新年会がありました。今年もスタッフが腕によりをかけた手作りの一品持ち寄りでお皿はごちそうでいっぱい。煮物、焼き豚、春巻き、黒豆、すき焼き、昆布巻き、きんとん、干し柿、等々。新潟の亀田さんからの杵つきのお餅はなめらかで、きな粉もいい香り。手作りの食事のあたたかさと力がしっかりと伝わってきました。

食事の後の「家族対抗・億万長者ゲーム」では、5つの家族グループに別れて大いに盛り上がりました。最後は一人一人が今年の抱負を語り、皆が静かに耳を傾けました。「今年も体を大切にしていきたい」「クッキングハウスで楽しく過ごしたい」「旅行も楽しんでいきたい」等々皆で語り合うと、「いい一年にしていきたい」という願いが、心の中でよりいっそう深まってきました。その後、希望者で近くの布田天神にお参りにいきました。正月のお休みが明けて、こうして皆で一緒に食事をとったり、語り合ったり、楽しく遊んだりする居場所の大切さを、しみじみとかみしめるひと時でした。(写真・クッキングハウス会提供)

みな子を選んだ2024年映画ベスト10

日本映画	外国映画
1位 夜明けのすべて (238号)	1位 マウリポリの20日間 (239号)
2位 拳と祈り 袴田巖の生涯 (242号)	2位 コット、はじまりの夏
3位 正体	3位 オッペンハイマー (239号)
4位 アナウンサーたちの戦争 (241号)	4位 ソウルの春
5位 戦雲(いくさふむ) (239号)	5位 コール・ジェーン 女性たちの秘密の電話
6位 侍タイムスリッパー	6位 シビル・ウォー アメリカ最後の日
7位 ミッシング	7位 ポストン1947
8位 どうすればよかったか?	8位 お坊さまと鉄砲
9位 私にふさわしいホテル	9位 人間の境界 (240号)
10位 ラストマイル	10位 ホールドオーバーズ 置いてけぼりのホリデイ



2024年のベスト10を選んでみました。あくまでも私が好きな又は印象に残った映画です。映画の後にあるのは銀河通信で紹介した号です。紹介してない映画を中心に

書きます。

日本映画 1位は238号もご覧ください。

1位「夜明けのすべて」

月経前症候群とパニック障害という生きにくさを抱えた者同士が、肩を寄せ合い助け合って生きていければというメッセージが伝わってきました。光の中を電車が走っていく場面が何度かある。それはまるで宇宙を走る銀河鉄道のように見えました。プラネタリウムのシーンも忘れがたい。亡き夫がそばにるように思えました。人生の様々な瞬間に、何度も思い出してしまうような大切な一本になる傑作だと思う。機会があったら是非観てほしいです。毎日映画コンクールで三宅唱監督は日本映画大賞、監督賞、ファン賞を受賞。(左下が一場面です。)

3位「正体」

横浜流星が変装しながら無実を証明するために逃亡する死刑囚鎌木を熱演。姿、職業の違う5人になりすます。人から疑われ続けてもなお、信じたかったと答える鎌木(横浜流星)。人を、世界を信じるために、戦い続けていたのかもしれない。「人を信じることの難しさ」が大きなテーマの一つですが一步踏み込んだ終盤の展開とラストに泣けました。

6位「侍タイムスリッパー」

物語の展開からして面白い。時代劇への愛にあふれた作品。斬られ役、会津藩。題材になっているのはいずれも表舞台とはいえないもの。そういう意味で、これは日陰に生きている人たちに光を当てている作品だとも思ったロコミで広がったとか。私も映画サークル会員から聞いて観ました。面白い自主映画こそ多くの人に観てもらいたい。

7位「ミッシング」

石原さとみの圧倒的な演技に引きこまれました。沼津市を舞台に、突然娘が行方不明になってしまった母親を描くヒューマンドラマ。ショッキングなことは起こらないのに徐々に心が落ち着かなくなる。「悲劇に遭った人」と「それを見る人」の構図。理不尽な喪失を経験した人が再起するためには何が必要なのか丁寧に描かれていました。

8位「どうすればよかったか？」

藤野監督の姉の家族の葛藤と苦悩を通じて統合失調症の現実を描いた作品です。母親が感じる「恥」は、社会全体が持つ偏見の反映でありそれが患者とその家族を孤立させたと思う。第三者に相談することができなかったこと。医療につながるのが遅かったのが残念です。藤野さんが、勇気をもって映画化したことは大事なことだと感銘を受けました。クッキングハウスのような居場所があったらと思いました。

9位「私にふさわしいホテル」

新人作家を演じるのがのん。このキャラクターが想像の3倍くらいは強烈で癖が強い。不可能を勢いで可能に変えていく。出版業界の裏側が垣間見えるのも面白かったし、のんがバイタリティでのし上がっていくところも好き。

10位「ラストマイル」

ブラックフライデーというセールイベント。この期間がお祭りとばかりに盛り上がっていくが、配送を行うドライバーの過酷な労働環境に追い打ちをかけるように、配達された荷物が爆発します。倉庫の現場もストレスがたまる。大騒動がいつか現実になるのではと思いました。

外国映画

2位「コット、はじまりの夏」

内気な少女のひと夏の出来事。遠い親戚の夫婦との交流を描く。温かくて心が洗われるような作品。



草花の囁き、木漏れ日、波紋、日々の生活で何気なく目にする自然の美しさを掬い上げ、五感に訴えかけてくる。互いが真にかけがえのない存在であると示唆するラストシーンが格別に素晴らしい。アイルランドから届いた珠玉の一作。

4位「ソウルの春」

1979年12月12日に発生した軍事クーデターを題材にしている。翌年の光州事件という民主化運動への布石となる歴史的出来事を描いています。光州事件がどのように世界に伝えられたのかは「タクシー運転手」で描かれました。しかし、悲劇の発端である軍事クーデターの全容を初めて知った。

韓国では尹錫悦(ユン・ソンニョル)大統領が戒厳令を敷き、軍を投入。大多数の市民が抗議しました。暴力で統治することは二度とあってはならないと学んだ作品です。



5位「コール・ジェーン 女性たちの秘密の電話」

女性の選択の権利としての人工妊娠中絶を描いた実話を基にした映画です。私たちが生きるこの生きにくい時代も、この映画のようにハッピーピーエンドでありますように。知恵とユーモア、勇気と怒りで繋がるキャラクターたち。つながり、語り合い、行動する姿が、目に焼き付いています。今も世界各地に、たくさんの「ジェーン」が存在します。勇気がわいてくるような作品でした。

6位「シビル・ウォー アメリカ最後の日」

政府機関と独立した軍部により分断され、内戦状態に陥った架空のアメリカを舞台にした作品ですが、その手触りのリアルさ、明日にでもそうなるかも知れない恐ろしさを生のままに伝えます。主な登場人物は4人で、全員がジャーナリストであり、目的は軍事的な攻略を受けて、その明暗が風前の灯である合衆国大統領へインタビューをすることがテーマ。主演のジャーナリストはキルステン・ダンスト。無愛想だが気骨のある女性を好演して印象に残りました。

7位「ボストン1947」

祖国への思いを胸にボストンマラソンに挑む男たち。ユンボクが、自由に羽ばたき空を飛び回る鳥を見上げるシーンは、まさに“自由”を象徴する瞬間。数々の障壁を乗り越え、ようやくこぎつけた機会。不自由さや束縛感、しがらみといったものが無くなり、自由に走れることの嬉しさが伝わってきました。韓国がこの大会で世界一になった歴史に胸が熱くなりました。

8位「お坊さまと鉄砲」

2006年のブータン。突然の民主化に揺れる人々をユーモラスに描いたコメディ。国王の退位に伴って民主化が進められ、初めての選挙が実施される



ことになった頃の話です。模擬投票所には国王の肖像写真と、「明るい未来のために投票しましょう」の言葉。政府は模擬選挙の開催を決定。民主主義を教えることになるのですが、ブータンの人々はその必要性を感じていない。投票の結果はいかに。思いがけない結末になんとかウルッとしました。

今の日本やアメリカのトランプ大統領に不安を感じる日々。タイムリーに民主主義と選挙について考えさせられました。

10位「ホールドオーバーズ 置いてけぼりのホリデイ」

孤独を抱えた立場の異なる3人が同じ時を過ごす内に互いの抱えてるものに触れ親しくなっていくという話。寄宿学校のクリスマス休暇、教師と生徒、料理長の居残り3人組の変化と成長を描く。アンガスとハナムの関係性が深まっていく。過去の偉人たちの言葉を引き合いに出していたハナムがそれを否定してアンガスを励ます場面が好きです。彼らの人生が少しでも希望に照らされてるものであることを祈ります。

読者からのお便り (敬称略)

★家で印刷してましたが、本物はやはり、紙も文字も美しい。訴える力がちがいました。身内で回し読みしています。(弘前市・松田耕一郎)

★みな子さん、いつも通信の編集、構成、発送まで一人でされてすごいなあと思います。書評も映画評も楽しみ。ブレンディさんの新刊、みな子さんの想いとすごく重なったんですね。みな子さんの傍に内に澄生さんがいつも居ることを感じる文章でした。(石川県津幡町・水野スウ)

★36年間の通信を集大成して、本として出版したら何冊になるのでしょうか。個人のパワー、持続力に驚きます。まだ1年の読者ですが通信は充実していますね。(調布市・鈴木陽子)

★郵便料金、振込手数料の値上げに心底腹をたてています。(神奈川県大磯町・石川旺)

★銀河通信は現在のさまざまな表現を取り上げて、それを耕し、磨き上げていると思う。ただ本屋に行くと、それが消えかけていると体感します。次の時代はこの土壌を大切しながら生み出していきたいものです。(札幌市・佐竹政治)

購読料と寄付をありがとうございます(敬称略)

2024.12.3~2025.1.17

赤坂京子 福原正和 安部裕美 高橋備(2回)
岩井善昭 高橋政春 小宮山あい子 久野真紀子
木村玲子 松田裕明 鈴木陽子(2回) 亀田法子
高木恵子 小川信之 鈴木えり子 吉岡しげみ
田村陽子 泉恵子 伊藤功 尾寄弘子 田端豊
太田肇・朋子 水野スウ 徳永興司郎 鶴田昌嘉
吉田まゆみ・赤坂としあき 塩川哲男 高橋春枝
石川有佳 伊藤牧子 藤田春美 糟谷奈保子 福島清
大竹進 鈴木ゆかり 西村敏子 石井一弘 小西恵江子
津田孝 中村秀子 高嶋道 金尾誠一 藪田亨
伊藤誠一 大橋晃 佐久間明美 堀和恵 二階堂初代
鈴木訓 趙博 村井直美 石川旺 藤田とし子
反橋一夫 白鳥眞理子 合計213,000円は印刷と送料
に使わせていただきます。振込用紙がお手元にある方はそのまま使えますが、今後の振込はゆうちょ銀行(記号)19710 番号02218911 他銀行からは「店名」(978) 普通預金「口座番号」0221891ヒグチミナコ宛にお願いします。